



たかさか・ひろし 1951年生まれ。74年東京大学工学部卒業。81年同大学院修了。工学博士。87年米国シンクタンク・パテル記念研究所客員研究員を経て、90年日本総合研究所の設立に参画。事業企画部長、取締役・創発戦略センター所長を経て、現在、同研究所フェロー。2000年多摩大学大学院教授。同年、シンクタンク・ソフィアバンクを設立。代表に就任。

プロフェッショナルの道を歩むために

講演 多摩大学大学院教授 シンクタンク・ソフィアバンク代表 田坂 広志氏

就職活動はこれから本番、十二月七日(金)に開催された「今、若者たちへ」連戦企画セミナー「目録就職サクセスシンポ」には、就職活動中の多数の学生が集まった。熱心にメモを取るなど、真剣そのもの。多摩大学大学院教授でシンクタンク・ソフィアバンク代表でもある田坂広志氏の講演の抄録と、日本経済新聞のイメージキャラクターを務める長谷部瞳さんが山野茂樹日経読み方M.A.S.T.E.R.(日本経済新聞社販売局マーケット開発部長)に聞いた「日経の読み方講座」を採録する。

相手の時間を大切にすることは基本的な心構え

プロフェッショナルの道を歩む第一の心構えは、何か。それは何よりもまず、相手の時間を大切にすることです。学生時代に私は、研究室でのテーマ発表のあとで、恩師に叱られたことがあります。「君の話は、何が言いたいのか分からない。君は出席したメンバー全員、自分の時間を無駄にした」と。この厳しい言葉が、それからずっと、今も心に残っています。それは、恩師の愛情とともに、すなわち、自分と接した相手に有意義な時間を過ごせたと感じてもらえたかどうか。皆さんがプロをめざすならば、常に、そのことを反省し、工夫しなければなりません。例えば営業の場合、もし契約が取れなかったとしても、「この人と会って良かった。また会いたい」と思ってもらえるかどうか。それが、プロになれるかどうかの別れ道です。ビジネスの世界で成長できるかどうかは、学生時代の成績とは、あまり関係がない。相手の時間を大切にできるか、その極めて基本的なことが、実はとても重要なことです。プロの第二の心構えは、自分の時間を大切にすること。そのためには、戦略思考が重要です。戦略とは「戦い」を略すこと(「ハ」と読む。貴重な人生の時間を無駄にしないためには、戦略思考を身につけた時代は、先を読む、キャリア戦略を立てなければなりません。では、時代の先を読むとは、何か。例えば、これから知識社会で何が起るか。多くの人が知識社会とは、知識が価値を持つ社会であると思っ

本当に自信があれば人は謙虚になれる

では、「専門的な知識」を身につけただけでは活躍できないとすれば、知識社会で活躍するためには、何が必要か。「職業的な智慧」です。つまり、スキル、センス、テクニック、ノウハウと呼ばれる「言葉で表せない智慧」を身につけた人材が活躍します。例えは、弁護士。活躍する弁護士とは、顧客から相談を受ける、混乱して語る顧客の話からも即座に要点を掴み取り、専門知識に照らして法的な問題点を明確にする。そして、素人にも分かりやすく問題を説明し、法廷闘争のため

業務時間と自己投資の時間

プロをめざすためには、自らが投資が欠かせません。しかし、ここにも誤解があります。それは、投資すべきは「資金」ではなく、「時間」であるという事です。それも、早期や通勤などの「すき間時間」や、「週末の時間」ではありません。ビジネスマンが投資すべきは、「業務時間」です。なぜなら、会社で働く時間というのは不思議な時間であり、給与と引き換えに会社に売ってしまった時間でありながら、例えは、上司に、炎天下に一緒に顧客回りを命じられたとする。それを業務命令だから仕方ないと思えば、単にその時間を会社に売ってしまっただけで終わってしまう。しかし、それを、営業の腕を磨くチャンスと捉え、上司は、どのよう

